

岩崎純一学術研究所 女性局 著

『岩崎純一全集』 第二卷 「序説、
総記（二）」

女性編纂別添資料

女性局および女性現実研究所について

編纂、監修

岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

目次

- 一 女性局とその派生組織・女性現実研究所（女現研、ウィル―ル）の違い、およびそれらの目的について
- 二 女性編纂別添資料（女性系）の概要
- 三 閲覧室の運営
- 四 女性共同研究（女子寮の運営など）
- 五 女性局・女現研のあゆみ
（岩崎純一さんとの合同勉強会、岩崎純一さんのお話を聴く会、（続）岩崎純一さんに会いたい会、岩崎純一研究会）
- 六 岩崎純一（CIN）所長、女性局長、女性現実研究所最高代表、連携女子寮・シェアハウス特別顧問）が教員・講師（非常勤講師、特別講師、招聘講師、ゲスト講師など）を務める大学の現役女子学生からの相談への対応に関する注意事項

二〇一二年十月十三日 起筆

二〇一八年九月三十日 更新

二〇一九年九月十五日 更新

二〇一九年九月二十六日 更新

二〇二〇年四月七日 最終更新

一 女性局とその派生組織・女性現実研究所(女現研、ウイールル)の違い、およびそれらの目的について

JIAIの女性局は、広義には女現研を含みます。二〇〇四年から現在までのJIAI女性スタッフやJIAIへの協力女性(巫女、歌道子女、性被害・性依存・性症状・精神障害・神経障害の経験女性、社会人女性、主婦、女子大学生、女子高校生など)で成り立っています。JICA・JICW・JIAL・JIDCの女性部門(巫女神道・歌道関連資料、性的内容など)を統括しています。公表している資料は、提供女性から(主に個々の女性の現実を世に広く知ってもらうことを目的として)公表の要望があったか、公表の許可が得られたもののみです。女性局と女現研は、どちらもJIAIから派生した組織ですが、自治性・独立性の高さと扱っている資料が違います。

女性局は、岩崎所長と女性スタッフの協議により、JIAI内に設置されました。岩崎に対して自治を保ちつつも、あくまでもJIAIの内
部組織で、むしろ岩崎所長と共にJIAI本部を構成して岩崎をサポート

トしています。扱う内容も、岩崎の学術活動に準じ、岩崎の巫女神道・和歌・古典論への協力など、高度に哲学的・学術的な内容を扱います。また、岩崎・JIAI本部と女現研との間の著作権の譲渡などを担当します。

活動場所は、JIAI本部、巫女が勤務する神社・社務所、スタッフが居住する女子寮・女子シェアハウスになります。

女性局は、元を辿れば、主に三つの女性サークル(「岩崎純一さんとの合同勉強会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「(統)岩崎純一さんに会いたい会」)の共同体です。現在は、岩崎式十進分類法(JIDC)に基づき、女性局以下に女性部、女性班、女性係などを形成しています。詳しくは、『岩崎純一全集』第一集の序巻く第七巻をご覧ください。

一方、女性現実研究所(女現研、Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウイールル)は、女性局が女性の性に関する内容(性被害・性依存・性症状など)を調査研究・通報する際の実動部隊としての機能であり、機構の名称です。岩崎に一極集中してきた女性たちからの性的内容を含む相談・資料の分散化を図るため、岩崎からの要請を受けて設置され、JIAIの外局として機能しています。この場合、複数の女性を共同代表(セクターリーダー)とし、JIDCの女性局(長)、女性部(長)、女性班(長)などは、そのまま女現研のセクター(リーダー)、グループ(リーダー)、コホート(リーダー)など、すなわち各クラスターへスライドして、調査部隊(ウォッチャー)として機能する即応体制(クラスター・スラ

イド・システム）をとっています。岩崎は、女現研内では最高代表など別の名称で呼ばれます。

女現研は、岩崎が女性の手中への全面移管を要求している資料（女性の著しい性被害・性依存・性症状資料など）の引き受けや調査研究を優先的に行います。女性の皆様から岩崎・JCAIに多数寄せられている性的暴行・虐待その他の性被害の相談について、自治体、児童相談所、警察、学校などに通告・通報を行っているのも女現研です。

活動場所はいくつかの女子寮や女子シェアハウスに分かれ、うち一つ（シェアハウス型女子寮）は女現研専用施設としての整備が期待されています。特に性被害女性を守るため、活動内容や活動拠点の多くを公表してはいないという意味では、女性ボランティア秘密活動結社とも言えるでしょう。被害の実物（被害日記、写真、衣類等）は女子寮附属の保管庫へ入れられ、報告文書作成、システム構築、サイバーパトロールは岩崎が行っています。

この試みは、単なる資料のアーカイブ化のみならず、憲法、刑法、民法、著作権法などの現日本の法規体系と現代日本女性の生活、人生、権利の関係を考察する社会実験を兼ねています。とりわけ、性犯罪、セクハラ、リベンジポルノ、痴漢（冤罪も）や慰安婦問題などが取り沙汰され、極左フェミニズム団体も極右ナショナリズム団体も発言権を増し、国民が左右二極化している現代日本において、様々な大学で教鞭を執るようになった一人の男性（岩崎）が女性たちからの性的内容を含む相談・資料を大量に抱え込んでおくことは、

やはり望ましいことではないだろうという結論に至りました。

そこで、東洋哲学的観点を基軸として総合学術を展開する岩崎と、その試みに賛同する女性たちが協力し合い、「女性の性に関するセルフアーカイビング計画」として、資料を徐々に女性たちに移管することとし、その具体的な移管先として女性現実研究所を設置いたしました。しかし、あくまでもタブー・言及禁止事項は全く設けず、女性たち自身が「女性現実」をストレートに、無作為に、無為の境地で公表する場として、設置するものです。

私たちは、岩崎・JCAIと女性局・女現研の住み分けを定期的に議論し、二〇五〇年頃までの体制の完全構築を目指しています。最大限の中立性を図るため、特定の女性人権団体、NPO、宗教団体、社会福祉法人、学校法人などの幹部（法人は法人の役員・構成員）の女性局・女性局・女現研のスタッフになることができません。

二 女性編纂別添資料（女性系）の概要

「女性編纂別添資料アーカイブ」は、JCA・JCWの構成資料でありつつ、岩崎の要請・監督のもとに女性局・女現研スタッフが主導して管理する調査研究資料です。女性スタッフは、JDCと『全集』序巻く第七巻の定めに従って編纂・収録しています。一般女性も収録を希望することができます。

JDC方式（〇系〇群〇類〇綱・・・）におけるJCA・JCW

の女性編纂別添資料は、「○女性系○女性群○女性類○女性綱……」で表されます。

これらは、旧「岩崎純一のウェブサイト」の女性専用スペースに掲載していた女性資料アーカイブに新たな資料を追加し再編したもので、次のような資料で構成されます。

● 女性局の資料「女性編纂別添資料」

▽ 女性の性に関する内容を含まないが、もっぱら女性（であること）が主要テーマである資料

…男女雇用機会均等法の対象外となる女子に固有の職業（巫女など）に関する学術資料（巫女神道論など）、女性に特有の精神障害・神経障害に関する学術資料など。

収録・保管先は、

◇ IJCA・IJCW の「通常資料フォルダ（保管庫）」

一部（著作権に関する事項など）はピンクの「女性編

纂別添資料フォルダ（保管庫）マーク」



● 女性現実研究所の資料『女性現実物語』

▽ 女性の性に関する内容を含む資料

…女現研が『女性現実物語（Women's Real-Life Tales）

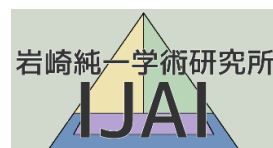
WRLT』ウィルト』として編纂。広義には「女性編纂別添

資料」に含まれ、岩崎の作成・執筆資料はそのまま岩



崎も管理を担当する。但し、女性たちからの著しく性的な内容を含む精神障害・神経障害の相談などの文書資料であるがために、女現研が介入し、IJCA・IJCW への収録を保留している状態が、『女性現実物語』である。また、女性たちから岩崎・IJAI に提供されたか、または提供希望のあった、性被害を証する日記、写真、衣類などは、岩崎からの要請を受け、女現研スタッフが居住する女子寮・女子シェアハウスの保管庫で保管。

収録・保管先は、



三 閲覧室の運営

岩崎純一のウェブサイト
女性専用スペース
Women Only

参考

（旧「岩崎純一のウェブサイト」の女性専用スペース）

女性現実研究所
『女性現実物語』

◇ 女性局の実動調査部隊「女性現実研究所」のサイト、および連携女子寮・女子シェアハウス

女性局のメンバーは、岩崎に許可を得た上で、自分たちが居住する女子寮、女性専用シェアハウスや女性シェアハウスなどの中に、岩崎純一総合アーカイブ・『岩崎純一全集』の自由な閲覧室（閲覧スペース、閲覧端末）を設置しているケースがございます。

（設置・運営は女性スタッフ、システム構築は岩崎が担当。）
詳しくは、『全集』第一巻の序巻く第七巻をご覧ください。

四 女性共同研究（女子寮の運営など）

岩崎をめぐるのは、その共感覚や知覚世界、思想・論考、制作言語、和歌などの全貌について、女性研究者・女子学生や、古代の巫女舞・託宣の祭祀を継承する神社の巫女が中心となって、検証実験・研究を進めています。

また、岩崎純一総合アーカイブ・『岩崎純一全集』の閲覧室（閲覧スペース、閲覧端末）を設置している女子寮や女性シェアハウスは、岩崎純一学術研究所とは別に女性メンバーが運営・生活している場ですが、時々岩崎を招聘して講話会を開催し、その一部の文字記録は『全集』に収められています。

五 女性局・女現研のあゆみ

（岩崎純一さんとの合同勉強会、岩崎純一さんのお話を聴く会、

（続）岩崎純一さんに会いたい会、岩崎純一研究会

※ 『岩崎純一全集』第一巻の年表や第二巻の変遷表もご参照下さい。

二〇〇四年

現女性局・女現研の最高代表かつ連携女性シェアハウスの特別顧問で、最大の支援者である岩崎純一が、現在に至る各種の学術活動・サイト運営（旧「岩崎純一のウェブサイト・ブログ」）を開始。

元々「共感覚」や「サヴァン症候群」など人間の特殊知覚や特殊頭脳を研究なされるため、サイト運営やいろいろな活動を開始。岩崎氏は東京大学で、「人間とは何か」を探るため、ニーチェ哲学や実存哲学、精神病理学、仏教哲学、和歌、言語学、数理論理学などさまざまな分野を研究された。

二〇〇五年

岩崎氏がサイトで共感覚や精神病理学、哲学のコンテンツ、研究内容を追加・発表。

専修大学、東京大学などの女性研究者・女子学生や、古代の巫女舞・託宣の祭祀を継承する神宮・神社の巫女が中心となって、

岩崎の脳のメカニズム（共感覚、直観記憶、超音波知覚など）の検証実験・研究を開始。

また、岩崎の講義の聴講者、著書の読者、サイト閲覧者の女性から岩崎への感覚・知覚に関する相談・質問や人生相談（特に共感覚、心身問題、パワハラ・暴力被害、発達障害、不登校など）が増加。

二〇〇七年

岩崎氏がさらにサイトを拡充。

岩崎氏の元に、DV・暴力被害・性虐待・性被害による精神障害・身体障害・性依存・性症状の女性たちからの相談が殺到。以後、様々な症状や被害、境遇を抱える女性たちと交流されることになる。その中には、許嫁（いいなずけ）と呼ばれる結婚相手が生まれたときから親によって決められている先の巫女など、特殊な境遇の女性たちも含まれる。

岩崎氏が、ご本業のあいまに、さらに人間そのものを探究するため、単身で精神病理学・精神疾患の研究・フィールドワークを開始。以来、現在に至るまで、共感覚者や、世界保健機関（WHO）のICDやアメリカ精神医学会（APA）のDSMに定められているほとんどの精神疾患・発達障害・行動障害者、性被害・DV被害・性依存・性症状の女性などと面識をお持ちになる。これらの女性たちが、以後の各サークルの発足にも携わる。

これに伴い、岩崎が女性部門の独立運営を検討。岩崎の要請で女性スタッフの配置を開始。

精神障害・身体症状を持つ一部の女性たち（統合失調症、気分障害、解離性障害、PTSD、性被害、性依存、性症状など）が、空想・妄想の症状により、岩崎氏との虚偽の交際や結婚の決定をインターネット上（ブログ、SNSなど）に記載するなどのケースが見られた。岩崎氏および他の女性たちにより、防止・削除依頼活動をおこなない、大きな功を奏した。

岩崎氏が「岩崎式日本語」の考案を本格的に開始。この言語は、現代日本語・現代日本社会に対する精神疾患者の違和感を記述することを目的として、おもに性虐待・性依存・性症状の女性が、加害者である親族に内緒で日記・手記に用いたり、秘密裏に訴訟の草稿に用いたりするために、考案され続けている。

二〇〇九年

岩崎氏の著書『音に色が見える世界 「共感覚」とは何か』（P HP新書）が出版される。

大妻女子大学、駒沢女子大学、武蔵野大学、十文字学園女子大学の有志の女子学生らが、大学に諮って岩崎を特別講師として招聘し、「岩崎純一さんの合同勉強会」を名乗る。それ以来、これらの女子学生を中心に運営され、社会人女性、心身障害女性、主婦、女子高生・中学生なども参加。

しかし一方で、岩崎の意に反し、岩崎の著書を利用し、共感覚者を自称して、有償での共感覚の伝授を謳うセラピストやスピリチュアルカウンセラーによる共感覚ビジネスが横行。担い手のほとんどが女性であり、共感覚を霊能力などと謳っている。中には、セラピーやセミナーに集まった女性に、「性行為をすれば、より高いステージの共感覚を獲得できる」と謳い、女性を洗脳したりマインドコントロール下に置いたりする団体まで登場。これらのほとんどは、カルト宗教団体やAVメーカーのフロント女性ら（のグループ）である。（別途資料で解説、警告。）

また、政府機関までもが「共感覚」を誤解または曲解し、国家プロジェクトに共感覚を利用し、公金・税金を投入。

このような共感覚ブームは、既に二〇〇七年にはその兆しがあったが、岩崎が著書を出版した直後が最も激しく、二〇一三年前後まで続いた。岩崎の著書をきちんと読まず、岩崎が霊能力としての共感覚の書を出してくれ、自分たちにお墨付きを与えてくれたなどとして、岩崎を利用したセラピストなどが急増したためである。

それ以降の時期は、比較的正しく学問的な共感覚研究が行われるようになった。

しかし、ブームの時期に性被害に遭った女性たちが孤立感を強め、より一層岩崎との勉強会に集うようになっていった。

二〇一一年

岩崎氏の著書『私には女性の排卵が見える 共感覚者の不思議な世界』が出版される。

東京大学、大妻女子大学、共立女子大学、駒沢女子大学、帝京短期大学の有志の女子学生らが、大学に諮って岩崎を特別講師として招聘し、「岩崎純一さんのお話を聴く会」を名乗る。それ以来、これらの女子学生を中心に運営され、社会人女性、心身障害女性、主婦、女子高生・中学生なども参加。巫女・神道関係子女に運営が移る。

二〇一二年

東京藝術大学の有志の女子学生が、大学に諮って岩崎を特別講師として招聘し、「岩崎純一さんに会いたい会」を名乗る。「合同勉強会」・「お話を聴く会」と異なり、一人の女子学生がほぼ単独で主催。また、一般の誰もが参加できたこともあり、約百名が参加し、一回の規模としては三サークルの中で最大となった。のち、初回を聴講した女子学生を中心に「続 岩崎純一さんに会いたい会」として運営され、社会人女性、心身障害女性、主婦、女子高生・中学生なども参加（各回五〜五十名ずつ）。

二〇一二年

「合同勉強会」、「お話を聴く会」、「続 会いたい会」の三つの女子サークルが会い、それぞれのあり方や住み分けを話し合い。三サークルどうしでメンバーを少し交換。

岩崎氏から、社会通念上、男性の自分が運営するサイトや勉強会で扱うよりは患者女性たち自身が扱うことが望ましい身体症状や内容（PSAS・ReGSなどの特殊身体症状や特殊身体症状のリハビリテーション、レクリエーション）について、サイトの更新や勉強会の管理を女性メンバーにいいよ移管したい旨のご意向を受けて、女性メンバーが女性の「性」についての研究会を発足。

日本にもシェアハウスの概念が広まり、以前から一緒に住んでいた一部の女性メンバーたちが、本格的なハウスシェアリング形態で集住する案が出て、準備を開始。順次ハウスシェアリングを開始。また、岩崎氏が制作したサイト構築システムを導入して、寮内のネットワークの安全性を強化。これにより、性被害・性依存（性的倒錯）・性症状の分野について、女性メンバーによる管理・更新に移行がほぼ完了。以後、現在まで継続的にご支援いただいている。

このほか、岩崎氏のご著書やご活動については、株式会社ゲンロンの代表取締役で作家・思想家の東浩紀氏や、寮生（被害者）に暴力を振るった加害男性ら（ケンジ氏など）が、ネット（特にTwitter）上で岩崎氏への罵倒を展開するなどした。これらについては、岩崎氏は無視するという方針を貫かれたが、寮の女性スタッフらは率先して防止・削除依頼活動をおこなった。東浩紀氏に

は、一つも削除していただけなかった。

これらの出来事をきっかけに、岩崎氏をめぐる女性関連のコンテンツページ（特に、女性の「性」に関するコンテンツページ）について、岩崎氏の総監督のもとで、女性たち自身がお互いに監督する形で運営する方針が、岩崎氏との相談で固まってきた。

二〇一三年

岩崎式日本語研究会も参加していた人工言語学会の会長であったセレンIIアルバザードこと貞莉詩門（服役中）が、元妻を路上で襲う事件が起きる。事件の一因に、警察の不祥事のほか、被害者の避難していたシェルターに対する探偵活動があったため、大々的に報道される。一時期、一部の寮生たちが気分障害やヒステリーを呈する。

この事件以降、人工言語学会を脱退し、いっそう情報の秘匿に努めると共に、レイプ・殺人未遂被害女性の入居許可を拡大している。

また、岩崎氏の研究支援の一端を担いたいというサークルが、先の三サークル以外にも発足。「女性の性被害・性依存・性症状研究会」（女「性」研、JOSEIKEN）、「日本P S A S協会」がこれに当たる。岩崎のファンの女性メンバーが居住していた附属女子寮・シェアハウスの一つである「コンフィデンシャル・レディース東京」に、これらの本部が置かれる。

二〇一三年

複数の競合する大学の学生や不登校・心身障害女性たちが参加し、開催場所（大学や施設、神社）も複数にまたがる。一つの大学の公認の授業としては開催できなくなったので、大学などの教育機関を離れて、女性専用施設（女子寮、女性シェルター、心身障害女性施設など）や神社に開催場所を移す。順次、非公開化を進め、女子高生・女子中学生からの共感覚・心身問題の相談などへの対応方針の議論も進める。

二〇一五年

日本P S A S協会が女「性」研の併設の団体（規約上の分科会）となる。これと共に、協会メンバーは自動的に女「性」研の会員を兼ね、女「性」研の女子寮への入寮が優先的に可能となった。協会の事務局も、女「性」研の事務局内に移設。

しかし、これらのサークルの一部メンバーが運営方針に違反したため、「合同勉強会」、「お話を聴く会」、「統 会いたい会」の三つの女子サークルが話し合い、違反女性らを追放処分。これらのサークル、寮の合同ブログ・Twitter（二〇一四年開設）の閉鎖を要求し、閉鎖となる。元の三サークルを中心とする岩崎への支援方針がいっそう固まる。

二〇一六年

三サークルの合同本部を「岩崎純一研究会」に改称。岩崎氏より「女性専用ウェブスペース」を提供され、「女性専用スペース運営部」を設置する。この「女性専用スペース」の各ページにある女性たちからの相談内容は、元はほぼすべてが岩崎氏のもとに寄せられたものである。精神・身体症状の解説も、原案は岩崎氏のもので、私たちへの移管後の現在も、監修してくださっている。

女性専用スペースでは、これまで三五〇名余りの女性たちがこの十年間に岩崎純一氏に寄せてきた精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚様態についての相談、体験談、質問、要望などのうち、女性に特有のものを取り上げている。女性たちが自分自身の心や体を説明する場ともなっている。（女性の心身の不調に関する相談、悩みや苦しみの相談、性に関する症状や知覚・共感覚の悩み相談、性被害・性依存・性症状の相談、希死念慮の訴え、共感覚セラピー参加時のマインドコントロールや性的暴行の被害、乳がん・子宮がん・卵巣がんにおける心身の苦しみの相談、その他、器質性精神障害、統合失調症、気分障害、コタール症候群・妄想性人物誤認症候群、不安障害・恐怖症・強迫性障害・PTSD（心的外傷後ストレス障害）、身体表現性障害、解離性障害、適応障害、摂食障害、睡眠障害、性関連障害、人格（パーソナリティー）障害、発達障害・学習障害、小児期・青年期の行動・情緒障害や、CBT（認知行動療法）、エクスポージャー法（Exposure therapy）、暴露療法）、ERP（暴露反応妨害法）、SMR（Slow Mindful Repetition）、意識を傾注して行うゆっくりとした反復）、EMDR（眼

球運動による脱感作および再処理法）などの女性の性に関する特殊な精神・身体症状の医学的解説と治療プログラムについての相談など）

以前の更新作業は、岩崎氏の勉強会（岩崎氏のサイトのオフ会）に参加してきた女性たちが多く暮らす女性寮のサイバーシステム室から行っていた。岩崎氏から私たち女性スタッフに管理・運営代行のご依頼があったコンテンツを、私たちが予定通り女性専用スペースに移管すると、そのコンテンツがあった岩崎氏のサイトページへのリンクメニュー項目に一部の内容を女性専用スペース（女性スタッフが管理）へ移管したページマークが付くようになっていた。ただし、移管予定や移管後のコンテンツがまだ元のページに残っている場合もあり、移管作業は大変であった。

◆以前のログイン画面の文言の転記

- ログインありがとうございます。見たいページをクリックして下さい。
- 再度IDとパスワードを要求された場合は、同じIDとパスワードをご入力するとご覧いただけます。
- ログインページには、ご本名をお教えいただいた18歳以上の女性だけをご招待しています。
- ご相談内容が、私たちが運営に携わっているこの女性寮へのご入居をおすすめすることが望ましいと思われる事例の場合

（性暴力被害、特殊な性症状など）、その旨を返信させていただくことがあります。すぐにご入居いただけるわけではございませんが、ご相談内容には優先的に配慮いたします。

●この女性専用スペースの文章・画像などの著作物（引用部分を除く）は、岩崎純一氏の著作物、または、岩崎純一氏の著作物を女性スタッフが女性専用スペース向けに修正したものを含まず。当該部分のすべての著作権は、女性スタッフによる修正部分を含め、岩崎氏にあるものとします。

「岩崎純一のウェブサイト 女性専用スペース」の一般向けページの閲覧申請のしかた

●岩崎純一氏あての個人メールに、以下の内容をお送りください。

●メールフォームをお使いになる場合、「ご氏名」欄にご本名、「お問い合わせ内容」欄に「女性専用スペース閲覧希望」とお書きください。

*ご氏名（ニックネーム不可）

*職種（学生、無職など可）

*ご年齢（二十代、五十代など十歳単位でも可）

*女性専用スペースの閲覧を希望される旨

●これまで岩崎氏と面識や学術的な関わりのある以下のような女性は、特段の事情がない限り、岩崎氏および女性専用スペース運営部にて協議の上、すぐに閲覧を許可し、ID・パスワードを発行いたします。

（岩崎氏について研究・論文執筆経験のある女性、サイト内容へのご協力女性、共感覚実験への共同参加女性など）

●岩崎氏と一切の面識や関わりのない女性につきましては、閲覧許可までにお時間を頂く場合がございます。申し訳ございません。

●詳しくは、「女性専用スペースの設置、およびシェアハウス型女性寮の女性スタッフ・入居女性による特殊症状・知覚の解説の分担について」をご参照ください

岩崎と女性陣の双方の合意により、「岩崎純一研究会」（女性中心）が「岩崎純一学術研究所」（岩崎が所長）に吸収され、発展的解消。三サークルの合同部分を母体として、研究所内に「女性局」が設置される。「女性専用ウェブスペース」も継承。

現在、この女性専用のサイトスペースは、岩崎氏のサイト内にてご提供くださっており、引き続き私たちの住む寮から更新させていただきます。ほとんどの内容が、岩崎氏のサイトからの勉強会参加女性（特に上記ページ内容の勉強会への参加女性）、大学・研究施設での岩崎氏の授業・講義の聴講女性、岩崎氏のご著

書の読者女性たちが岩崎氏のもとに寄せてきた相談や体験談であるが、現在は岩崎氏から、「社会通念上、女性たち自身が管理・運営することが望ましいコンテンツ」として、私たちに移管されている。岩崎氏には、寮の運営そのものにもご協力いただいている。

一時期は、岩崎氏からの強いご要請を受け、岩崎氏がご自身のサイトでお使いになっている岩崎氏独自のサイトシステムを私たちがお借りして、別の独立サイトとして運営していたが、現在は、岩崎氏のサイトシステム内に女性専用スペースをお借りする形で、運営している。「岩崎氏にはこれからも運営に関わっていただきたい」という相談女性たちの強い要望を、岩崎氏には半分ほど元通りに受け入れていただいた形になっている。

岩崎純一学術研究所の支部や、附属サークルの本部や支部を、各女子寮事務局内に移動。東京藝術大学の学生による岩崎式日本語研究サイトなどは、これとは別に発足。

日本では不可能な PSAS・ReGS などの特殊身体症状の治療プログラムを、メンバー女性たちが海外で受けるため、寮の一部機能を海外ハウスとして移設。

二〇一七年

岩崎が岩崎式十進分類法 (JJDC) に基づいて、自身の活動の総合アーカイブ・リポジトリ化 (JJCA・JJCW の編纂) を開始。旧

三サークルの活動や著作物についても、女性局が整理を開始。最終的には、JJCA・JJCW への統合が目指されている。

二〇一八年

女性から岩崎・JJAI へ寄せられている過去や現在の性被害、性依存、性症状などの相談に女性スタッフが対応するため、JJAI 内に女性現実研究所を設置。女性局が性被害などの調査研究・通報部隊として活動する際の名称であり、編成も JJDC に基づいて行われる。

現在に至る。

六 岩崎純一 (JJAI) 所長、女性局長、女性現実研究所最高代表、連携女子寮・シェアハウス特別顧問) が教員・講師 (非常勤講師、特別講師、招聘講師、ゲスト講師など) を務める大学の現役女子学生からの相談への対応に関する注意事項

女性局と女性現実研究所の事実上の創設者である岩崎純一は、様々な大学において、様々な職名・臨時職名として、様々な学問芸術を講義しており、その担当校の数は現在も増加を続けております。

中には、これまでに個人として岩崎・IJIに相談（特に性的内容を含むもの）を持ち込み、回答を得、さらには、その後も岩崎・IJIの活動に協力し、その女性スタッフとなった女子学生（や女性教員）の所属する（した）大学が含まれます。

これら岩崎が教員・講師を務める大学の現役女子学生からの相談については、大変申し訳ございませんが、大学側の諸規程、および、昨今の日本社会の動向・世相・社会通念に鑑みて大学教員が有しているべきと考えられる倫理道德に従うため、回答すること自体が（禁止されているために）不可能、または極めて困難とならざるを得ず、事実そのような状況となっております。

該当する大学の現役女子学生様におかれましては、岩崎・IJIにご相談いただく前に、まずは大学に設置されている学生相談室やセクハラ被害相談窓口にご相談下さい。あるいは、岩崎・IJIのメールアドレスにご相談をお送りいただく場合は、岩崎ではなく、女性局のいずれかの女性スタッフへのご相談として（女性スタッフの氏名を宛名として入力して）お送り下さい。当該女性スタッフが回答いたします。

このようなお願いをさせていただくことは、やむを得ない措置であるとは私たちが考えており、心苦しい措置ではありますが、何卒ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

しかしながら、大学へのご相談で解決しない問題につきましては、いつでもご相談に乗ります。また、当の大学の担当教師や事務職員がセクハラや性的暴行の加害者である場合も、当然最初からご相談

に乗ります。

元より、女性の皆様からのご相談の集積である女性資料も、これを含むIJCも、岩崎のいかなる大学の教員・講師への着任（岩崎へのいかなる大学からの教員・講師への着任要請）にも先行して構築・整備されてきた「知」の巨大アーカイブであり、個々の大学の事情に合わせてこのあり方を事後的にねじ曲げるようなことはしません。従って、女子学生の皆様が、ご相談内容について遠慮して矮小化させたり、ご相談を諦めて泣き寝入りしたりする必要は全くありません。